

議 事 概 要

会 議 名	令和6年度 第1回種子島警察署協議会
会 議 日 時	令和6年6月5日木曜日 午後3時00分から午後4時40分まで
会 議 場 所	種子島警察署 会議室
出 席 者	1 警察署協議会 会長以下 7人 2 警察署 署長以下 8人

(会議の概要)

- 1 新幹部紹介
- 2 開会
- 3 会長挨拶
- 4 協議
 - (1) 業務推進状況説明
 - (2) 警察署行政に対する意見・要望等について
 - (3) 次回委員会の開催期日について
- 4 閉会
- 5 警察活動の視察

【警察署行政に対する意見・要望等についての概要】

委員

馬毛島基地建設や島内での工事についても工事関係車両や人員が目立って多くなってきておりますが、交通事故の増加や治安の安定に不安を持つ住民も増しているところ
です。
警察機関においては、「警察官の増員はしない。」との回答がありましたが、ほかに
重点的に対策等の事項があれば、支障のない範囲で御説明をいただきたいと思
います。

署長

警察官の定数は県の条例により3,035人と定められており、毎年、人口の増加や事
件事故の発生件数等を勘案し、警察本部において各警察署の定員を見直しており、委員
から増員はないとの質疑でしたが、昨年度、1人署員の増員配置をしています。
当署としましては、今回の人事異動を機に、昨年度、管内の事件事故の発生状況を見
て、署員の配置を見直し、地域課の自動車警ら班、いわゆるパトカー勤務員の体制を見
直してパトロールの強化を図るなど、事案対応の向上を図っているところです。
引き続き社会情勢の変化や住民のニーズに対応できるよう、適切に必要な措置を執っ
てまいりたいと考えています。

委員

馬毛島の基地工事に関して島民の不安は多いため、是非、署長の方から本部へ増員の
要望を御尽力いただきたい。
統廃合や廃止等で駐在所も少なくなっていることから、地域に根ざした活動をしてい
ただき、住民の不安解消を図ってほしい。

委員

県道588号線（野間島間港線）は、中央線の白線が消えかけている箇所が多いので対
策をお願いします。
先日、島間港の近くで、小筋から県道に出る車両とバイクの交通事故がありました。
小筋側には一時停止の線がなかったと思いますが、もし、停止線が消えていれば設置
をお願いします。

署長

先日、現場確認を行いました。
県道588号線（野間島間港線）の中種子町境から島間港までの間で中央線が一部摩耗
している区間を確認しましたので、道路管理者である鹿児島県熊毛支庁へ情報提供、対
応依頼を行っております。
島間港付近の交差点関連の交通事故の件につきましては、令和元年から令和6年4月
末までの間の分析を行いました。
島間港付近の県道588号線では、2件の出会い頭事故が発生しています。
いずれも物件事故となっております。
交通事故の主な原因としては、左右の安全不確認によるもので、一時不停止が原因と

なる交通事故の発生はありませんでした。

現場付近の交差点を確認したところ、左右の見通しがきかない交差点ではありますが、県道588号線の幅員が明らかに広く、道路管理者においてカラー舗装やロードミラーが設置されるなどの対策が執られており、運転者から見て道路の優先関係が明らかですので、新規の交通規制等の必要性はないと判断しています。

今後も交通安全教育の中で、交差点での安全確認の徹底を呼び掛けていきます。

委員

車の無人での自動運転車両に対する取締りはどうなりますか。

交通課長

自動運転につきましては、現在、政府が全国で限られた区域を設けて、完全自動運転車両の実証実験を行っております。

種子島にあっては、この実証実験の区域になっておらず、当然種子島島内では、現在そのような自動運転の車両は走行していません。

なお、この自動運転には5つのレベルが設けられています。

「レベル5」というのがいわゆる完全な自動運転というものであります。

現在、市販されている車両には、レベル3の自動運転機能が搭載され、高速道路等の一定条件下での自動運転モード機能を有するいわゆる「自動パイロット」が搭載されています。

委員

先日75歳になったため、高齢者の免許更新の認知機能検査を受けた。

絵を記憶するのが大変だったし、3つしか絵が思い出さなかった。

結果は県公安委員会に提出するとのことで、非常に緊張した。

実車での検査は小さな段差を乗り越えて停止するのができない人が多くいた。

なるほど、これが事故につながる運転操作かと思った。

免許更新できないと不安している者も多い。

署長

免許取得者の高齢化は進んで行くため、身体能力の低下を自覚してより安全運転を心掛けていただきたい。

委員

令和5年の免許を自主返納した方はどのくらいいますか。

聞いた話では免許返納した人は、「認知が進む。」と聞いたことがあります。

本人の自覚もですし、周りのサポートも大切だと思います。

交通課長

自主返納者数は現在手持ちにないため、後ほど答えることとしてよろしいでしょうか。

(協議会終了後、令和5年中における当署の自主返納者数は約100人と回答)

署長

鹿児島県は公共交通機関があまり発達しておらず、生活をするには車が必要というのもあります。

本人の体調、周りの生活環境や本人の意思等を考慮し、免許返納に関する相談等にも対応したいと思っております。

交通課長

免許返納にあっては、その方が所持する全ての種類を一度に返納する必要はありません。

例えば普段乗ることのない大型車や二種免許だけを返納する。または、普通免許は返納するけど原付免許は残しておくなど、その方の身体の状態や生活状況等に応じた返納をすることも可能です。

ほかにもブレーキやアクセルの踏み間違い防止機能を持ったいわゆる「サポートカー」が各メーカーから現在販売されておりますので、自動車買換え時の参考としていただきたい。

備考